

妙安寺だより

テレフォン法話 092-751-608

4

仏事の基礎知識 ⑩ 引 導

今回は、「」についてお話いたします。故人をに送るのに、葬儀の場に久遠の釈尊をはじめ沢山の仏弟子や諸天善神、日蓮聖人においでいただく。このときの仏・菩薩・善神の数は法華経序品によると、二十二万二千六百人にのぼるといわれます。

これほどの方々のをあおぎ、一人の信者の葬儀を営むところに日蓮宗の葬儀には尊さがあります。引導文は「今〇歳を今生の一期としてに行こうとしている信者がいます。どうぞ慈悲の御手をもって、この信者を霊山浄土にお連れ下さい。信者は俗名を改め、〇〇院〇〇信士といいます。どうぞお導き下さい」と、仏・菩薩・善神・日蓮聖人をお願いする言葉ではじまります。

故人に向かっては日蓮聖人の言葉の一節「私の弟子や檀那の人々よ、私より後に死の旅についたなら、閻魔大王の前で『私は日蓮聖人の弟子、檀那で〇〇といいます』と名乗りなさい。あなたが信じていた法華経の功德と遺族の人々が唱えてくれたお題目のおかげによって、霊山浄土に行くことができるでしょう。そのとき私・日蓮はあなたをお迎えに参りますよ」という(御遺文)を拝読し、故人が安心しての旅に出られるようにすのであります。

最後に、「永久にこれらの言葉を忘れてはなりません」と、もう一度言い渡すので『引導を渡す』というのです。

お願い

11月1日より来年2月10日までの100日間、副住職が日蓮宗大荒行(3回目)に入行致します。誠に申し訳ございませんが、来年春のお彼岸までの間は、月回向を休ませていただきます。また、年回忌法要は、できるだけお寺にて執り行なうようお願い申し上げます。

平成20年度の「地涌の声」功德主を募集しています。(1ヵ月 5,000円です)
希望月を指定の上、5,000円を添えて、お申し込み下さい。

11月の檀信徒勉強会

11月26日(月)午後1時より 持参品 お経本・数珠・テキスト(立正安国論)